

令和 4 年 6 月 8 日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2021

課題番号：16K02201

研究課題名(和文)イブン・シーナー『治癒の書』に関する比較思想史的研究(3)

研究課題名(英文)A Comparative Study of Ibn Sina's Book of Healing (3)

研究代表者

小林 春夫(Kobayashi, Haruo)

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：70242229

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：イスラーム世界を代表する哲学者・医学者であるイブン・シーナー(Ibn Sina, 1037年没)の思想の全体的解明に向けて、第一にその主著である『治癒の書』(Kitab al-Shifa')の形而上学部分を数種類の注釈書や現代語訳を用いて精読し、邦訳と注釈を作成した。第二にイブン・シーナーの思想の後世への影響をイスラーム思想史のみならず、シリア語圏(バルヘブラエウス)および中世ラテン語圏(トマス・アキナス)を含めて解明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

イブン・シーナー『治癒の書』は、アラビア語訳によって伝えられたアリストテレスの学問体系とイスラーム独自の世界観とを融合させた画期的な著作である。同書の影響は後代のイスラーム思想史のみならず、中世ユダヤ・キリスト教世界や東方キリスト教世界にも及んでいる。本研究では22回に及ぶ定期的な会合によって原典の精読を試みた他に、ギリシア・ラテン・シリア語圏をも視野に入れた比較研究を通じて同書の重要性を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This is a comparative study of Ibn Sina's Book of Healing, a magnum opus of one of the most important philosopher/scientists in the medieval Islamic world. During the period of study, we held 22 meetings for intensive reading of the Arabic original using several manuscripts, commentaries, and modern translations with the purpose of publishing an annotated Japanese translation. Next, we investigated its multiple influence on the later Islamic history of thinking as well as on the history of thought in the Syriac and Latin Christendom.

研究分野：思想史

キーワード：イブン・シーナー 『治癒の書』 イスラーム哲学 バルヘブラエウス トマス・アキナス

1. 研究開始当初の背景

イブン・スィーナー (Ibn Sina = Avicenna) はイスラーム世界を代表する哲学者・医学者であり、『治癒の書』(al-Shifa')はその主著の一つである。論理学・自然学・数学・形而上学(実践哲学を含む)の4群(=22部門)からなる大著で、ギリシア語からアラビア語への翻訳によって伝えられたアリストテレスの学問体系とイスラーム独自の世界観とを融合させた画期的な著作である。本書はイブン・スィーナー以降のイスラーム思想(狭義の哲学だけでなく、神学や神秘主義なども含む)に理論的枠組みを与えた。また12世紀のイベリア半島(トレド)で Sufficientia としてラテン語に翻訳され、アルベルトゥス・マグヌス (Albertus Magnus, 1280年没)やトマス・アクィナス(Thomas Aquinas, 1274年没)らを通じて中世スコラ哲学に深甚な影響を与えた。さらにマイモニデス(Maimonides, 1204年没)に代表される中世ユダヤ思想や、バルヘブラエウス (Barhebraeus, 1286年没)に代表される東方キリスト教世界の思想にも大きな影響を及ぼしている。このように、本書は単にイスラーム哲学の古典としてだけでなく、ギリシア・ラテン・シリア語圏をも視野に入れた比較研究の対象として取り上げるべき第一級の作品である。

本書に関する研究動向について略述するならば、本書はイスラーム世界(とくにイラン)において今日に至るまで哲学書の最高峰として読み継がれており(ムハンマド・アッ=タバータバーイー著『現代イスラーム哲学』黒田壽郎訳, 2010年などを参照)、現在も詳細な注釈付きのテキストが刊行中である(H. N. Isfahānī (ed.), al-Shifā' (al-Ilāhīyāt) wa Ta'līqāt-i Sadr al-Muta'allihīn 'alayhā, Tehran, 2004-)。他方、欧米ではかつて E. Gilson(1927)や A.-M. Goichon(1937)らの研究が代表的であったが、最近では D. Gutas の画期的研究 (Avicenna and the Aristotelian Tradition, 1988, 2nd ed., 2015) に触発されるかたちで優れた研究が陸続と現れており (Y. Michot, R. Wisnovsky, D. Reisman, A. Bertolacci, J. McGinnis etc.), 『治癒の書』の翻訳も相次いでいる(「形而上学」: Lizzini e Porro 2002, M. Marmura 2005, A. Bertolacci 2008; 「自然学」: J. McGinnis 2010)。これに比してわが国では、イブン・スィーナーに関する単著としては五十嵐一『東方の医と知 イブン・スィーナー研究』(1989)と同氏による『医学典範』の部分訳(1981)、研究代表者による『救済の書』の部分訳(2000)、木下雄介『魂について 治癒の書 自然学第6編』(2012)などが挙げられるのみで、本書に関する専著や形而上学部分の翻訳は存在しない。このようなわが国の研究状況を踏まえるならば、まずはアラビア語原典からの正確な翻訳が急務であり、これと平行してイブン・スィーナーの思想に関する多面的解明と、その影響についての比較思想史的研究を進めるべきであると考えた。

2. 研究の目的

申請者はこれまで、「イスラーム哲学におけるアリストテレス『デ・アニマ』受容と靈魂論の展開」(特定領域研究「古典学の再構築」公募研究, 平成11年度~平成14年度)や中世哲学会シンポジウム「存在と知性 イスラームから西洋へ」(2003年10月26日, 新潟大学)などに参画し、ギリシア哲学および西洋中世哲学の専門家と様々な意見交換を行ってきた。このような機会を通じてイスラーム哲学を比較思想史的に研究する意義とその重要性を強く認識するに至った。そして2006年の5月よりイスラーム思想、ギリシア思想、シリア語圏の思想などを専門とする研究者とともに「『治癒の書』研究会」を立ち上げ、同

書の形而上学部分の精読を開始した。この研究会はこれまで通算 65 回開催され、現在も継続中である。またこの研究会の主要メンバーによる「イブン・スィナー『治癒の書』に関する比較思想史的研究」は科学研究費、基盤研究(C)(一般)(平成 19 年度～22 年度および平成 23 年度～27 年度)に採択されている。これにより、同書の解題、第 1 巻の第 1 章～第 4 章までの翻訳・訳注、索引が完成し、今年度もその成果を発表予定である。またイスタンブール、ロンドン、オックスフォードにおける海外調査で本書に関する写本資料等を収集した他、本テーマに関連する個別研究の成果も多数発表している。この度の申請は、以上の研究の継続と発展を主たる目的とするものである。要約すれば、本研究の目的は以下の 2 点である。

(1) イスラーム世界を代表する哲学者・医学者イブン・スィナー (= Avicenna, 1037 年没) の思想解明に向けて、主著である『治癒の書』の形而上学部分を中心に研究と翻訳を行うこと。

(2) ギリシア語・シリア語・ラテン語圏の思想研究を専門とする分担者を加えて、同書成立の背景と、同書を含むイスラーム哲学が他の文化圏に及ぼした影響とを比較思想史の手法によって明らかにすること。

3. 研究の方法

本研究は『治癒の書』のアラビア語原典の精読を第一とし、それに基づいてイブン・スィナーの思想とその影響、他のイスラーム思想との関連性などを明らかにし、さらに他の文化圏における同書の受容状況を比較思想史的手法により研究する。このために、研究代表者の他に 2 名の研究分担者(高橋英海:ギリシア語・シリア語圏の思想,山本芳久:中世スコラ哲学,ユダヤ思想)を配置し、それに若手研究者と大学院生数名を加えた研究協力体制を組む。これにより、テキストの本文批判,定期的な読解作業を行い,また国内外における文献調査,各自の専門に応じた個別研究を進め,それらの成果を持ち寄って総合的に比較検討する場を設ける。

4. 研究成果

第一に、本研究期間を通じて 47 回の定例の研究会を開催した。そのうちの 22 回が『治癒の書』の精読, 25 回を比較思想史的研究に充てた。研究会には若手研究者や大学院生も参加し、厳密なテキスト読解と内容に関する多面的な討論を行った。小林春夫(研究代表者)は研究期間中、レバノン、イラン(2017 年 3 月)、小林春夫(研究代表者)と高橋英海(研究分担者)は研究期間中、イラン哲学協会(テヘラン)および古代宗教センター(コム) (2018 年 3 月)を訪問し、現地研究者との交流、文献調査、関連資料の収集を行った。

第二に、個別研究の成果として、小林春夫(研究代表者)はイブン・スィナーのイスラーム哲学史における位置づけについて、最近の研究動向を踏まえつつ明らかにし、その概要をセミナーで発表した。高橋英海(研究分担者)はシリア語圏の哲学・神学者バルヘブラエウスとイスラーム思想との関係について多面的に解明した。また山本芳久(研究分担者)はトマス・アクィナスおよびキリスト教思想とイスラームの関係について成果を発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 山本芳久	4. 巻 701
2. 論文標題 トマス・アクィナスの聖書註解：著作群におけるその位置づけ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 理想	6. 最初と最後の頁 28-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi Hidemi, Yaguchi Naohide	4. 巻 15
2. 論文標題 On the Medical Works of Barhebraeus: With a Description of the Abridgement of Hunain's Medical Questions	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Aramaic Studies	6. 最初と最後の頁 252-276
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1163/17455227-01501005	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本芳久	4. 巻 2017年2月号
2. 論文標題 トマス・アクィナスの「沈黙」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 文学界	6. 最初と最後の頁 260-261
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 10件/うち国際学会 10件）

1. 発表者名 Takahashi Hidemi
2. 発表標題 The Role of Syriac in the Propagation and Transmission of Knowledge within and beyond the Borders of the Roman Empire
3. 学会等名 論壇「羅馬帝国与東西方文明」（北京大学西方古典学中心）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takahashi Hidemi
2. 発表標題 Syriac Fragments from Turfan at Ryukoku University, Kyoto
3. 学会等名 6th Salzburg International Conference: Syriac Christianity in China and Central Asia (Almaty) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takahashi Hidemi
2. 発表標題 Barhebraeus comme philosophe: la philosophie de Barhebraeus ou les oeuvres philosophiques de Barhebraeus?
3. 学会等名 16e Table ronde internationale de la Societe d'etudes syriaques : la philosophie en syriaque, Institut protestant de theologie, Paris (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takahashi Hidemi
2. 発表標題 Barhebraeus and the Church of the East
3. 学会等名 Syriac Christianity at the Crossroads of Cultures: A Conference Commemorating the 700th Anniversary of 'Abdisho' of Nisibis, Pontificio Istituto Orientale, Roma (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takahashi Hidemi
2. 発表標題 Topics in Science in Syriac Transmission
3. 学会等名 Workshop: Late Antique Science and Religion, Department of Religion, Princeton University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hidemi Takahashi
2. 発表標題 Survival of Christianity in China: Remarks on Some Recent Discoveries
3. 学会等名 Symposium: Minorities in the Middle East (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hidemi Takahashi
2. 発表標題 On Some Syriac Scribes and Scholars of the Early Modern Period: Readers and Copyists of Barhabraeus' Works
3. 学会等名 Workshop: Syriac and Its Users in the Early Modern World c. 1500-1750 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hidemi Takahashi
2. 発表標題 What the Recent Finds Tell Us about the Practice of Faith among the Syriac-Rite Christians in China
3. 学会等名 基督宗教研究論壇(二零一七)、景教研究國際論壇:景教徒在華生活与信仰实践(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hidemi Takahashi
2. 発表標題 Syriac Christianity East of the Pamirs: On Some New Finds and Their Significance for the Understanding of Eurasian Christianity
3. 学会等名 International Conference "Georgia-Byzantium-Christian East (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hidemi Takahashi
2. 発表標題 The Attitude of Barhebraeus towards Islam and Islamic Scholars
3. 学会等名 International Medieval Congress 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本芳久
2. 発表標題 トマス・アキノナスの感情論
3. 学会等名 哲学会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山本芳久
2. 発表標題 ディオニシウス受容の多面性：マクシモスとトマス・アキノナス
3. 学会等名 教父研究会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小林春夫
2. 発表標題 イスラーム哲学史の再考
3. 学会等名 東京大学中東地域研究センター中東セミナー「中東と遺産：文化・歴史・信仰の展開」(招待講演)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 小林春夫、荒井正剛（共）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 208ページ
3. 書名 イスラーム／ムスリムをどう教えるか	

1. 著者名 山本芳久	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新潮社	5. 総ページ数 320ページ
3. 書名 世界は善に満ちている：トマス・アクィナス哲学講義	

1. 著者名 小林春夫および高橋英海（分担執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 826ページ
3. 書名 中東・オリエント文化事典	

1. 著者名 Hidemi Takahashi（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Brepols	5. 総ページ数 320 pp.
3. 書名 The Church of the East in Central Asia and China	

1. 著者名 Takahashi Hidemi	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Geuthner (Paris)	5. 総ページ数 381-388
3. 書名 La philosophie en syriaque (Etudes syriaques 16)	

1. 著者名 若松 英輔、山本 芳久	4. 発行年 2018年
2. 出版社 文藝春秋	5. 総ページ数 320
3. 書名 キリスト教講義	

1. 著者名 Hidemi Takahashi	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Peeters (Louvain)	5. 総ページ数 XIV-408 (245-266)
3. 書名 Syriac in Its Multi-Cultural Context: First International Syriac Studies Symposium, Mardin Artuklu University, Institute of Living Languages, 20-22 April 2012, Mardin (Eastern Christian Studies 23)	

1. 著者名 山本 芳久	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 274
3. 書名 トマス・アクィナス：理性と神秘	

1. 著者名 山本芳久、乙部延剛、稲垣良典、飯田賢穂、坂本邦暢、土橋茂樹、野邊晴陽、アラスデア・マッキンタイア、松村良祐、松森奈津子、三重野清顕、村井則夫、山内志朗、井上彰、松元雅和、森川輝一、山岡龍一、山本圭	4. 発行年 2017年
2. 出版社 堀之内出版	5. 総ページ数 280 (10-29, 62-81, 156-167)
3. 書名 nyx 第4号	

1. 著者名 山本芳久、安藤 礼二、若松 英輔	4. 発行年 2017年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 256 (234-251)
3. 書名 井筒俊彦	

1. 著者名 小林春夫	4. 発行年 2016年
2. 出版社 知泉書館	5. 総ページ数 1402
3. 書名 哲学中辞典	

1. 著者名 山本芳久	4. 発行年 2016年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 406
3. 書名 続・ハイデガー読本	

〔産業財産権〕

〔その他〕

イブン・スィーナー『治癒の書』研究会
<https://sites.google.com/site/ibnsinashifa2/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高橋 英海 (Takahashi Hidemi) (20349228)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	
研究分担者	山本 芳久 (Yamamoto Yoshihisa) (50375599)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------